



「いつの世の人もわたしを幸いな者というでしょう」

聖母被昇天おめでとうございます。

8月15日は日本では「お盆」と「終戦記念日」の方が有名で、聖母被昇天は隠れがちですが、その意味を改めて考えることは大切なことです。

「最後に、原罪のいかなる汚れにも染まらずに守られていた汚れなき処女は、地上生活の道程を終えて、肉体と霊魂ともども天の栄光に引き上げられ、そして主から、すべてのものの女王として高められました。それは、主たる者の主であり、罪と死の征服者である自分の子に、マリアがよりよく似たものとなるためでした。」聖マリアは天に上げられることによって御子の復活に特別なしかたであずかり、他のキリスト者の復活を先取りされました。

(「カトリック教会のカテキズム」より)

<信徒委員会・各部からのお知らせ>

<信徒委員会より>

・集会祭儀

毎月第一日曜日 11:00～は集会祭儀となります。「集会祭儀はミサではないので、参加しない」という方もいらっしゃるかもしれませんが、集会祭儀はミサに劣る典礼ではありませんので、変わらずご参加ください。

<典礼部より>

・ミサのキリアーレ (4つの賛歌：いつくしみ、栄光、感謝、平和) について

昨年ミサで皆が声を出して歌うことができるようになって以来、塩田泉神父様作曲の賛歌を歌ってきましたが、山口神父様のミサを

より豊かにするために、中央協議会の「全国版(A)」も歌えるようになった方がよいのご意向を受け、聖歌隊で練習を始めています。

オルガニストと聖歌隊が習得した後、10月のミサより会衆も歌うことになりました。併せて「主の祈り」も「全国版」に変えることとなります。定着するまでしばらくは全国版を継続する予定です。最初は戸惑うと思いますが、よろしく願いいたします。

<地区部より>

感謝の集いミサ 9月15日(日) 11:00～
ミサの中で祝福を行います。(会食、茶話会、写真撮影はありません)

内容【信徒委員会】集会祭儀【典礼部】ミサのキリアーレ【地区部】感謝の集いミサ
【恐ろしい予言は、人間性向上のチャンスです 山口神父様】

【寄稿 ルルドの泉にボランティアに行ってきました】【サモア～主によばれて(31)】

恐ろしい予言は、人間性向上のチャンスです。

主任司祭 フランシスコ 山口 一彦

「2025年7月5日、大津波によって日本は壊滅する。」…こんな恐ろしい予言を、皆さんは最近聞いたことがありますか。まだテレビではほんの少ししか紹介されていませんが、インターネットや書籍では2～3年前から、いろんなところで話題になっています。指定の日付まで1年を切っていますので、そのうち皆さんも耳にすることになるでしょう。その時の心の持ち方について予めお伝えしようと思い、今、パソコンのキーボードをたたいています。

この予言、実は情報源がいくつもあるそうです。おもなものを挙げてみます。

1. 阪神淡路大震災と東日本大震災、クイーンのボーカル、フレディ・マーキュリーやダイアナ妃の突然死などを、予知夢によって正確に言い当てたことで知られる元漫画家たつき諒（りょう）氏…「2025年7月5日、フィリピン沖の海がボコッと盛り上がり、大きな津波が日本を初め東南アジアの国々を襲う。」

2. ヤスエ方程式で世界的に知られる物理学者、ノートルダム清心女子大名誉教授保江邦夫博士…「アメリカ航空宇宙局（NASA）からの極秘情報として、2025年7月5日、フィリピン沖に隕石が落下するという話を聞いた。」

3. ネイティブ・アメリカン、ホピ族の予言…「2025年、ブルー・スター・カチーナ（青い星の精霊）が天空に現れ、今の世界は浄化される。」

4. 『このママにきーめた』『胎内記憶図鑑』などで知られる絵本作家斎藤のぶみ氏が、母親のお腹に宿る前の記憶を持つ何人もの子どもたちに、「どうして生まれてくる子どもが減っているのかな」と尋ねた時の子どもたちの答え…「えっ、知らないの。みんな流されちゃうからだよ。」

実はまだまだあるんですが、皆さんの不安をあおるのが本稿の目的ではありませんので、このくらいにしておきます。隕石落下が引き金となって起きる南海トラフ大地震と津波。そんな光景を思い描いてしまいますが、皆さんはいかがですか。私などは「はずれてほしい」と切実に願いますし、「バカバカしい」と笑い飛ばしたい思いでいっぱいです。でも、それで良いのでしょうか。そんなふうに自分をごまかしても、心のどこかでモヤモヤとした不安は残りませんか。

旧約聖書にある『ヨナ書』を、皆さんもご存じでしょう。次に少し引用します……「ヨナは主の命令どおり、直ちにニネベに行った。ニネベは非常に大きな都で、一回りするの

に三日かかった。ヨナはまず都に入り、一日分の距離を歩きながら叫び、そして言った。『あと四十日すれば、ニネベの都は滅びる。』すると、ニネベの人々は神を信じ、断食を呼びかけ、身分の高い者も低い者も身に粗布をまとった。このことがニネベの王に伝えられると、王は王座から立ち上がって王衣を脱ぎ捨て、粗布をまとして灰の上に座し、王と大臣たちの名によって布告を出し、ニネベに断食を命じた。…神は彼らの業、彼らが悪の道を離れたことを御覧になり、思い直され、宣告した災いをくたすのをやめられた。」(ヨナ3章3～10節) …世界一の都ニネベの人たちは、神様からの預言を聞き入れ、回心して、物質的欲望の道から離れたので、災いをまぬがれたというお話です。この有名な聖書の物語から、私たちは学ばなければなりません。

私たちの人生の本質は、物質的側面ではなくて精神的側面にあります。例えば、ステージ4のガンが見つかり、「余命は1年です」と宣告されたら、皆さん、どうしますか。初めは「何かの間違いだ」と抵抗するでしょうけれど、次第に現実を受け入れ、「残された日々を、今まで以上に大切に生きよう」と思うのではないのでしょうか。毎日の生活の中で繰り返される隣人との出会いをいとおしみ、道端の小さな花の命にも感動

の目を止め、それまでの自分の不徳を反省し、仲たがいしていた人には謝罪の言葉を伝えたいと思うでしょう。そのようなことをもしも実践できたならば、「余命1年」の宣告は神様からの導きだったと言えるでしょう。

2025年7月5日に関する前述の予言についても、同じように考えることはできないのでしょうか。ニネベの人たちのように、悔い改める良いチャンスではないのでしょうか。あと1年、いつ人生を終えてイエス様の前に立たされても、「お教えに従って、精一杯生きました」と胸を張って答えられるように過ごしたいものです。未来の原因は全て、今この時に存在していますから、未来の方向性はおおよそ決まっています。でも、神様は私たち人間に「自由意志」をお与えになりました。私たちの選択によっては、未来を変えることはできるはずですが、人間にはその力が与えられています。このことは、神学でも哲学でも自然科学でも、同じように語られています。パンデミック、異常気象、戦争…近年の大災害は全て、私たち人類の自由意志がもたらしたものです。この流れを変えるために、神様はいくつもの未来予言を通して、私たちに回心を呼びかけているのではないのでしょうか。

ルルドの泉にボランティアに行ってきました

大宮区 長塩礼子

かつて、大宮教会に、ルルドのマリア様があったことは、皆さん覚えていらっしゃると思います。私の子どもが、みどり幼稚園に通っていた時、登園すると「マリア様おはよう」帰るときは「マリア様さよなら」と、毎日我が子も含めて園児たちが挨拶していました。

16歳の少女ベルナデッタにマリア様



ベルナデッタの像
洞窟のマリア様に向
かって祈っています

が表れて、この地面を掘りなさいと言われて掘ったところ泉が滾々と湧き出て、その泉に浸ると難病が治ったと言われていました。また、マリア様から、この洞窟の上に教会をたてな

さいと言われ、毎日神父様に教会を建ててくださいと言いつ

けて、ついに神父様も信じて、教会が建ったというルルドです。

ルルドは、ピレネー山脈のふもとにあり、空気のきれいなところ。ピレネー山脈の氷河から流れているきれいなポー川が真ん中を堂々と流れています。バジリカは世界一美しいと言われているとてもすてきな教会です。



洞窟の上に立つ教会とその前を流れるポー川

山口神父様とジャック神父様に紹介状を書いていただき、そのルルドに夫とボランティアに行ってきました。現地では、ボランティアではなくホスピタリティー（おもてなし）と言います。ルルドは人口 16,000 人の小さな町ですが、そこに年間 500 万人もの人が訪れます。その中にはたくさんの障害のある方や病気を抱えている方がいらっしゃいます。

その方たちが滞在する大きな病院が 2 か所あり、そのうちの 1 つの病院には、元教皇ヨハネパウロ 2 世が滞在していた部屋もあります。

ルルドのおもてなしは、ほとんどホスピタリティーで成り立っています。皆さん、1 週間から 2 週間活動しています。10 年間来ているなんて方ばかりで、中には高校生の時から 50 代の今までずっと来ているという方もいます。その中で、日本人は我々が初めてだそうです。二人とも英語の力は中学 1 年生並み、相当迷惑をかけたのではないかと思います。

1 年目は、体験が目的で、夕方にボランティアセンターの壁に次の日のプログラムが掲示されます。そのプログラムに従って活動をするのですが、実際にする活動は簡単なことなのですが、その前の説明が我々二人には理解が難しく、時々スマホの-google 翻訳に頼ると「オーミスター-google!」と笑われ「ミスター-googleグッドジョブ」と言い返しては笑い合いました。

行動する前に円陣を組んでマリア様の祈りを唱えるのですが、イタリア語やフランス語、英語など各国の言葉で

唱え、私も「ジャパニーズ」と手を上げて、日本語で唱えさせてもらいました。皆さん関心を持って聞いてくださいました。

5000人も収容できる一番大きな礼拝堂では、ミサの時にホスチアを渡す神父様のそばに目印の旗を持って立ったり、4月から10月まで毎日行われるろうそく行列や聖体行列の一般の方たちの列の先頭に立ったり、立ち入り禁止のロープをもったり、病院の掃除、泉の水に浸るプールに並んでいる方に、何語を話すか聞いてその言語担当のプールに案内したりしました。ルルド特有の車いすがあり、その介助の仕方や押し方なども練習しましたが、あいにく実践の機会がありませんでした。



学校にも行けなかった貧しいベルナデッタの少女時代の家、大家族だったのに1部屋だけのトイレもない家

プログラムの合間に、ベルナデッタの生家や育った家、ベルナデッタが毎日神父様のところにドアをたたいてお願いしたドアのところ、ベルナデッタのお父さんが幽閉された牢屋など見て

回りました。毎日が感動の連続です。日本語を話せるのは二人だけ、夫婦お互いしか頼れないので、けんかをしている場合にはありませんでした。

ホスピタリティーが終わって、ルルドからパリを経てヌベールの修道院に眠っているベルナデッタに会ってきました。会える時間は限られていることは後で知ったのですが、なんと運のよかったことでしょうか。修道院につくと丁度御ミサが始まったところで、御ミサの後にお御堂の中に安置されているベルナデッタに会うことができました。

ベルナデッタが待っていてくれたとしか思えません。



ろうそく行列と、教会を正面から見たところ

皆さんも是非、ルルドのボランティアに行ってみませんか。ルルドのホームページにボランティア募集が載っています。

私たちももっと英会話を勉強して来年のホスピタリティーに臨みたいと思います。



教会を建ててくださいと何度も訴えに行ったドア

† サモア～主に呼ばれて (31) †

いよいよ授業を担当する日がやってきました。

朝は、8時の全校集会から始まります。ホールに全員が集まって、朝礼をします。

最初は、聖歌をみんなで歌います。電子ピアノがあり、ニュージーランド人ボランティアのバーニーが伴奏してくれます。曲は時々変わります。新しい歌の時は、バーニーがリードし、少しずつ歌います。最初はメロディーだけですが、何回か歌うと自分たちで2部合唱にしていました。サモア人の音感の良さにびっくりしました。

そのあとは、校長先生から連絡があります。よく話していたのは、授業料のことです。滞納者は名前を呼ばれ、早く払うようにと言われていました。日本の学校では、人前で未納者の名前を呼ぶことはないので、びっくりしました。

朝礼が終わると生徒は各教室に入り、授業が始まります。私も、教室に行って授業をします。教科書は1クラス分しかないので、クラスの人数分の冊数が入った教科書の箱を持って教室に行きます。

内容は日本より1学年遅れくらいの内容を学習します。私がいた学校は日本で言えば中学2年生からですが、内容は9年生で中学1年生の学習内容です。

私が行ったところは後期の学期が始まったばかりでしたが、内容は一次方程式でした。10年生や11年生も教えました。どの学年で何を教えたかも覚えていません。教科書は授業時に貸すのですが、しっかり数を数えないとすぐに足りなくなることをサモア人の先生に教えてもらいました。

当時のサモアは、まだ全体的に貧しく、子供は自分の物はあまり持っていません。ですから、何かしら自分の物を欲しがっているように見受けられました。

日本にいたときに、サモアで先生をしていた高橋ユリさん(真岡教会信徒)には、家庭科で裁縫をするときに針の本数を授業が終わった時に確認しないと、すぐになくなると聞いていました。三角関数を教えるときには、三角関数表(図1)を貸すのですが、これも授業終わりに数えないと何枚か戻ってき

ません。そういう時は、全部戻ってくるまで、授業を終わりにしないで教室に残します。そうすると1枚、2枚と戻ってきて、最終的には全部集まります。足りないと次の授業で困るし、そうなるとこのクラスのみみんなも困ると言っても理解してもらえません。

日本だったら、「こんな物いらない」とすぐに言われそうな表ですよ。皆さんも高校生の時に使ったと思いますが、自分の物にしようとは思いませんよね。

また、授業中はおしゃべりが多いです。女子校だから多いというわけではなく、数学が分からないからおしゃべりに興じてしまうようでした。授業はサモア語の授業以外はすべて英語で行われます。つまり、英語が分からないと勉強も分からなくなってしまいます。それは少しかわいそうでした。とはいえ、サモア語はできないので英語で授業するしかないので、こちら英語はそんなにうまく話せるわけではないので、別な方法で説明してあげられないのもありました。ですから、数学が苦手な生徒だけでなく、英語が苦手な生徒も数学が苦手になってしまいます。校長先生からは、「高校卒業資格の試験に合格させてほしい」と言われていました。日本は、大学受験資格というのがありましたが、サモアでは、高校卒業資格というのが重要です。一定の学力があることが認められるので、卒業後に有利になります。

角	正弦 (sin)	余弦 (cos)	正接 (tan)	角	正弦 (sin)	余弦 (cos)	正接 (tan)
0	0.0000	1.0000	0.0000	45	0.7071	0.7071	1.0000
1	0.0175	0.9998	0.0175	46	0.7193	0.6947	1.0355
2	0.0349	0.9994	0.0349	47	0.7314	0.6820	1.0724
3	0.0523	0.9986	0.0524	48	0.7431	0.6691	1.1106
4	0.0698	0.9976	0.0699	49	0.7547	0.6561	1.1504
5	0.0872	0.9962	0.0875	50	0.7660	0.6428	1.1918
6	0.1045	0.9945	0.1051	51	0.7771	0.6293	1.2349
7	0.1219	0.9925	0.1228	52	0.7880	0.6157	1.2799
8	0.1392	0.9903	0.1405	53	0.7986	0.6018	1.3270
9	0.1564	0.9877	0.1584	54	0.8090	0.5878	1.3764
10	0.1736	0.9848	0.1763	55	0.8192	0.5736	1.4281
11	0.1908	0.9816	0.1944	56	0.8290	0.5592	1.4826
12	0.2079	0.9781	0.2126	57	0.8387	0.5446	1.5399

図 1

見沼区 齊藤

🍀 おおみや教会通信はカトリック大宮教会のHP (<https://catholic-omiya.net>) でご覧になれます。

* ご意見や投稿(本などの感想、特集してほしいことなど)を募集しています。

FAX か郵送で受け付けています

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町2丁目350 FAX 048-641-2724

カトリック大宮教会 広報部宛

* おおみや教会通信 8月号は 発行予定、原稿締め切り

